

月刊 社会保険 7

2019 VOL.828

一般社団法人
全国社会保険協会連合会

協会けんぽからのお知らせ

協会けんぽの申請書・届出書 2019年5月から新様式の使用にご協力をお願いします

令和元年度における「社会保障の充実」(概要)

2040年を展望した社会保障・働き方改革本部のとりまとめについて

高齢者雇用促進および中途採用・経験者採用の促進

妊産婦に対する保健・医療体制の在り方に関する検討会 議論の取りまとめ(概要)

協会けんぽからのお知らせ

協会けんぽの申請書・届出書 2019年5月から新様式の使用にご協力をお願いします 4

令和元年度における「社会保障の充実」(概要) 6

2040年を展望した社会保障・働き方改革本部のとりまとめについて 7

高齢者雇用促進および中途採用・経験者採用の促進 10

妊産婦に対する保健・医療体制の在り方に関する検討会 議論の取りまとめ(概要) 14

社会保険・労働保険の手続きと届出様式 第3回 労働保険の年度更新申告書(継続事業)
監修/社会保険労務士法人SKMオフィス 16

年金・健康保険委員活動報告 健康で永く働く 社会医療法人清和会西川病院法人事務局長 沖田 幸雄 18

「卓球^{カフェ}珈琲」プロジェクト 卓球とカフェで日本の健康づくりとまちづくりを応援する!!
一般社団法人卓球で日本を元気にする会事務局 伊藤 由貴 20

書評 佐藤 敏信^{さとう としのぶ}著『THE 中医協—その変遷を踏まえ健康保険制度の『今』を探る』 24

サステイナブル
持続可能な社会の扉を開けた人たち

第7回(前編) サステイナビリティの思想がピンクリボン運動を活性化させた。
聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック院長 福田 まする
株式会社朝日エル会長 岡山 慶子 25

日本とは異なるイタリアの高齢者事情 第3回 イタリアの高齢者の食生活事情
イタリア在住ジャーナリスト 西ヶ久保 徹郎 28

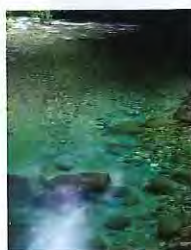
認知症を予防する② 第3回 健康長寿の栄養学 お茶の水健康長寿クリニック院長 白澤 たくじ 30

社会保険Q&Aシリーズ 健康保険編 32/年金保険編 34/介護保険編 36/労働保険編 38
特定社会保険労務士 鈴木 ひろみ

表紙写真・竹内敏信/イラストレーション・水森亜土、/デザイン・STデザイン、(有)フェイム/編集協力・(株)アップルハウス/印刷・(株)エイエヌオフセット

表紙のこぼれ—— 竹内敏信 「光の響」「水の風景」

かめま
栃木県鹿沼市



おおし
鹿沼市大芦川で撮影したものである。

この川は実に美しい。見てわかるように水が青く澄み切っている。道路沿いということもあり、実に行きやすい。この時期になると川で遊んでいる家族連れなどをよく見かける。水の流れる音を聞きながら、ゆっくりと、ときを過ごすのもいいだろう。私のように撮影するのもいいだろう。

楽しみ方は人それぞれ。少し残念なのは、最近外に出て自然と体感している人が極端に減ってしまったこと。住む町の自然を、今まで以上に知って欲しいものである。そしてこの季節を堪能したいものである。

© 本誌制作にあたっては、国等からの補助金等を一切受けておりません。

健康で永く働く



社会医療法人清和会西川病院法人事務局長
沖田 幸雄

●活動場所・地域の紹介
私たちが活動している島根県浜田市を紹介します。島根県は、旧国名でいえば出雲の国と隠岐の国、そして浜田市のある石見の国から成り立っています。

出雲地方には国宝松江城や玉造温泉、出雲大社など全国的に有名な観光地があり、隠岐地方は、島々すべてが隠岐ユネスコ世界ジオパークに認定されている美しい自然の観光地です。また、石見地方には世界遺産である石見銀山遺跡や山陰の小京都、S.Lの街津和野町が観光地として有名です。

私たちの浜田市にはシロイルカのバブルリングが楽しめる水族館「アクアス」や勇壮な舞で観客を魅了する伝統芸能「石見神楽」があります。

そして、石見地方は、元号「令和」で一躍脚光を浴びた万葉集で有名な柿本人麻呂ゆかりの地であり、人麻呂が歌で詠んだ地名が、今も数多くそのまま地名として残っています。

紹介したものは、ごく一部です。自然と歴史の観光資源豊富な島根

県へ是非1度足をお運びいただければ幸いです。

●事業所の紹介

私が勤務する社会医療法人清和会は、西川病院を中核として精神疾患や精神障害を抱えておられる方々へ、医療や福祉サービスを提供している医療法人です。

古くは、先々代理理事長による昭和8（1933）年の医院開設からはじまり、昭和27（1952）年の病院開設から今年で67年目を迎えます。

西川病院は408床の精神科病院であり、8個の病棟と外来やデイケアでの医療サービスを実施しています。さらに在宅や退院後の生活を支援するために、訪問事業や相談事業、障がい者の就労、グループホームなどの福祉事業を行い、精神科領域における総合的な医療・福祉支援を目指しています。

●年金・健康保険委員活動として

私が勤務する社会医療法人清和会には、医療職はじめ多くの職種の職員約400名が働いており、事務局は法人全体の事務を統括して、社

会保険（健康保険・厚生年金事務をはじめ、職員に関するあらゆる手続きを行っています）。

社会保険制度や法人独自の企業年金制度など、専門的で難しい知識を職員へ説明し、啓発していくことも非常に重要な役割です。医療専門職ほど「そういったことにはまったく興味ない」という人が多く、担当者には説明や手続きに日々奮闘しています。

また、職員の健康管理も重要な課題と考えています。

ご存じのように、島根県は少子高齢化の最先進県であり、特に西部石見地方ではその傾向は顕著です。一説によれば、「少子高齢化」の段階はすでにピークを過ぎ、その後訪れる「人口減少社会」へ突入したといわれ、職員が高齢化し、一定年限により退職を迎えても、「補充採用できる若者がいない」「そもそも就労人口が圧倒的に少ない」という事態を迎えています。

こういった状況では、現在働いて

いる職員に「健康で永く働いてもらう」ということが、企業にとつていかに重要かは、論を待ちません。私たちの法人においても、この課題に真剣に取り組んでいます。

まず、制度的な施策として、2年前から職員の定年年齢を60歳から62歳へ引き上げ、雇用延長制度とあわせれば、希望する人は67歳まで働くことが可能とするように規則を改正しました。

そして、職員の健康管理を専門に行う機関として「健康管理委員会」を設置し、健康診断結果やストレスチェック結果のフォローや相談・各種助言等を実施し、また、安全衛生委員会と協働して、健康チャレンジ企画など各種健康イベントを計画、開催しています。

これからもさらにこれらの取組みを強化・推進して、職員の健康寿命と就労年齢を少しでも伸ばすことができれば、健康で働きたいと思っと思っています。

●おわりに

少子高齢化・就労人口の減少という問題は、健康保険や厚生年金と

いう社会保険制度に深刻な危機をもたらすものです。特に保険料収入の減少と給付の増大という財政的な問題は深刻と考えられます。

この問題に対して、私たちが個人としてできることは限られています。健康で過ごすこと、医療のお世話にならないこと、や、「永く働いて、年金をもらう期間を短く、年金を払う期間を延ばす」ことは、努力すれば実現できる可能性はあるのではないのでしょうか。そして、このように努力することが社会保険制度の維持・安定に少しでも寄与できることではないかと思っっています。

老後の過ごし方については、個人の考え方もあり、一概に「永く働く」ことを美徳として強要はできませんが、一個人として、また年金・健康保険委員として、この問題について、今後も職員と一緒に考えながら努力をつづけていきたいと思っます。

最後になりましたが、全国の年金・健康保険委員の皆様の後まますのこ活躍とご健康をこころより祈念申し上げます。

（浜田社会保険委員会会長）



社会医療法人清和会西川病院

